

ウーバー テクノロジーズ(UBER)

【セクター】 陸運

【市場】 NYSE

【企業概要】

2009年3月にサンフランシスコで設立された配車サービスの会社です。2010年に他社に先駆けてスマホアプリによる配車サービスを開始、グローバルに展開して世界最大手となっています。配車サービスを主力に、シナジーが期待される出前の「ウーバー・イーツ」、荷物配送の「ウーバー・フレイト」も展開します。中国の滴滴出行（ディディチューション）、東南アジアのGrab、ロシアおよびCIS諸国のヤンデックスタクシーに出資しています。19年5月初旬に公募価格45ドルで上場、19年11月初旬にロックアップ期日を通過しています。

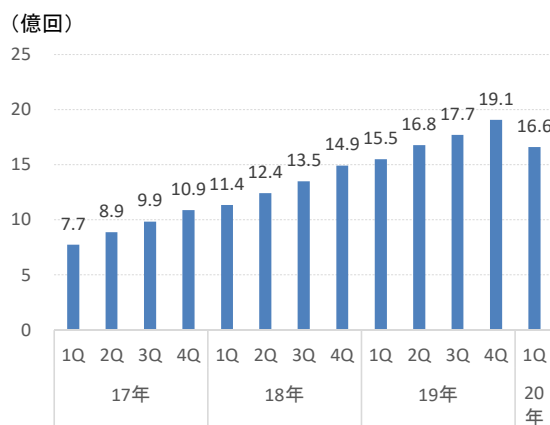
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
18年12月期	11,270	-2,908	-	0.00	-	-55.8	28.3
19年12月期	14,147	-8,216	-6.58	0.00	8.3	-78.4	47.8
20年12月期予想	12,042	-4,884	-3.05	0.00	5.7	-46.4	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

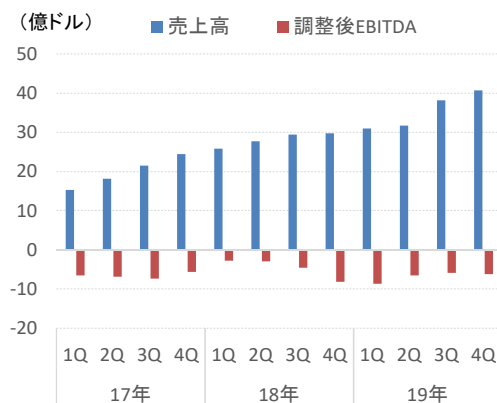
【主要指標】

図表1 配車サービスの利用回数



（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

図表2 四半期の売上・利益の推移



（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

【会社の見方】

主力の「配車サービス」は、スマホのアプリを使って自動車の所有者・運転者と、移動手段として自動車に乗りたいユーザーを結びつけるプラットフォームで、利用顧客が支払った額の78%がドライバーの取り分、22%がウーバーの取り分となって売上に計上される仕組みです（18年12月期）。同社は米国を中心に同サービスを世界63か国、約700都市で展開、利用は急速に広がっています。しかし、18年10-12月期に同社のサービスを利用した人数（ユニークユーザー数）は対象地域の2%にとどまり、成長は始まったばかりだとしています。

【見通し・注目点】

20年1-3月期はCOVID-19の影響を受けて売上が10-12月期の前年同期比37%増から同14%増に減速しました。ライドが同30%増から同2%増と影響が大きく、イーツも同151%増から同53%増となっています。調整後EBITDAの赤字額は前年同期の8.7億ドルから6.1億ドルへ縮小しています。5/7（木）の決算説明会では、過去3週間のライドは前年同期比プラスに転じており、直近週は同12%増と回復の兆しがあるとなりました。期末の手元流動性は90億ドルを確保しています。

（SBI証券 投資情報部 榮 聡）

（更新日 20/5/20）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。